

徳島大学 留学生センターニュース

<http://www.isc.tokushima-u.ac.jp/>

No.1

2003.5.1

留学生センターへの期待

徳島大学長 青野 敏博



徳島大学では現在、学部学生 25 名、大学院生 136 名、研究生等 30 名の合計 191 名の留学生が学位の取得を目指して勉学に励んでいます。特に中国からの学生が過半数を占めていますが、その他もアジア諸国から徳島大学に来られた方がほとんどです。

平成 14 年 4 月に省令で徳島大学に留学生センターが設置され、同年 12 月には教授 3 名と助教授 2 名のスタッフがやっと揃い、また留学生課の 5 名の職員がこれを補佐して、留学生の皆様の支援のため頑張っています。

最近、新蔵地区に地域国際交流センターを建設する計画が具体化しており、留学生センターのほか、留学生のための教育、交流スペースや、宿舎を含む建築のプランが練られています。このような施設が整えば、留学生の方々の利便性に大きく寄与し、楽しく学び、快適に暮らして頂けるようになるものと期待しています。

この留学生センターニュースの発刊が、センターの業務の自己点検評価につながり、かつ学内外への PR となることを願っています。

センターニュース発刊の辞

センター長 岸 恭一



昨年 4 月に徳島大学にも留学生センターが設置されました。センターはこの創刊号に挙げましたような役割をもっています。現在、センターは高等教育の国際化、多文化理解・共生を目指しています。徳島大学国際化の拠点として、センター教員並びに留学生課職員は丸一となって国際貢献に邁進する所存でございます。

しかし、固有の建物がない、センター教官が揃ったのが昨年末と遅かったこともあって本格的な活動ができていない、留学生と交流するホールがない等々のために、その存在が十分に知られているとは申せません。全学の皆さんにセンターの活動を理解し、知って戴くために、センターニュースを発刊することになりました。助言、批判、叱正など忌憚のないご意見を賜り、ご支援下さいますようお願い申し上げます。

留学生センターの目指すもの

- ① 留学生の日常生活、自発的な研究・学習活動を支える日本語能力を育成すること。
- ② 留学生ならびに留学生を取り巻く人々に、多様な価値観に柔軟に対応する為の多文化理解教育を受ける機会を提供すること。
- ③ 留学生及び日本人学生の国際交流に関わる相談・助言・指導を行うこと。
- ④ 上記三つの目標を達成する為の環境を整備すること。

留学生課職員紹介

電話 088-656-7082 ファックス 088-656-9873



課長 宮本 俊明
(みやもと としあき)



専門員 安藤松太郎
(あんどう まつたろう)



係長 塩田 頼男
(しおた よりお)



係員 松尾麻里子
(まつお まりこ)



係員 安田 綾
(やすだ あや)



係員 谷 美奈子
(たに みなこ)

国際交流会館紹介

徳島大学国際交流会館は、本学の教育研究の国際交流の促進に寄与するため、外国人留学生及び外国人研究者に宿舎を提供するとともに、国際交流の場を供することを目的として設置されました。



係員 長沢美知子
(ながさわ みちこ)



留学生センター教員紹介

日本語教育担当



教授 **Gehrtz 三隅 友子**
 (げーるつ みすみ ともこ)
 088-656-7120 (内線 3911)
misumi@ias.tokushima-u.ac.jp

留学生相談指導担当



教授 **金 成海**
 (きん せいかい)
 088-656-7543 (内線 4778)
kin@pm.tokushima-u.ac.jp

日本語教育担当



教授 **大石 寧子**
 (おおいし やすこ)
 088-656-9875 (内線 9875)
oishi@cue.tokushima-u.ac.jp

異文化理解教育担当



助教授 **坂田 浩**
 (さかた ひろし)
 088-656-7199 (内線 2206)
kobayasi@ias.tokushima-u.ac.jp

日本語教育担当



助教授 **上田 崇仁**
 (うえだ たかひと)
 088-656-9872 (内線 9872)
ueda@pm.tokushima-u.ac.jp



行事報告

2002年5月

- ★日本語補講開始
- ★国際交流会館新入居者
オリエンテーション
- ★新入生ガイダンス

2002年6月

- ★地域安全フォーラム

2002年7月

- ★日本語弁論大会
(協賛行事)

2002年8月

- ★日本文化体験交流会

2002年9月

- ★外国人留学生のための大学
説明会(参加)
- ★留学生見学旅行

2002年10月

- ★国際交流会館入居者と地域住
民との交流親睦会
- ★留学生のための大学説明会

2002年11月

- ★多文化体験交流会(協賛行事)
- ★日本留学フェア in 中国(参加)
- ★日本人学生のための
留学説明会

2002年12月

- ★留学生センター開所式
- ★世界の夕べ
(ドイツ篇:「ドイツの夕べ」)

2003年3月

- ★留学生交流懇談会

留学生センター開所式

2002年12月13日（金）に留学生センターは開所式を行いました。開所式は、当日午後より記念講演会、式典、懇親会の順に行われました。

記念講演では、国立国語研究所（独立行政法人）^{かい}甲斐所長から学生、教職員を含めて約150名の聴衆を前に「独立行政法人化で何が変わったか」、「外来語の日本語表記」に関するお話をいただきました。



その後の祝賀会では、学内外の関係者からの祝辞、また留学生代表と日本人学生代表のセンターに望むことが出され、今後の徳島大学の国際交流に関する提案等が提示されました。名実ともにお披露目も終了し留学生センターへの今後の期待が非常に大きいことを実感した一日でした。お越しくくださった関係諸機関の皆様に深く感謝いたします。

（三隅 友子）

外国人留学生交流懇談会の開催

毎年恒例となっている学校外国人留学生交流懇談会が留学生支援団体・企業と留学生指導教官・チューターおよび教職員の参加のもと、3月11日（火）に阿波観光ホテルで開催されました。

この行事は留学生も楽しみにしている行事の一つであり、今年も22カ国からの留学生約250人が参加し、懇談と友好を深めることができました。

青野学長および岸留学生センター長の挨拶のあと、来賓を代表して北島町国際交流協会の吉成会長からご挨拶をいただきました。

来年三月卒業・修了により徳島を去る留学生に対し、青野学長から藍染めのテーブルセンターが記念品として贈られ、留学生を代表して、歯学研究科を修了し、母国に帰国することとなっている平形ルシアナ真弓さん（ブラジル）からお礼の言葉が述べられました。

懇談会の終わりには娯茶平連による阿波踊りもあり民族衣装などで参加した留学生も踊りの輪に加わり楽しいひとときを過ごしました。

最後に大学院人間自然環境研究科の米麗英さんから謝辞があり、懇談会は盛会のうちに終了しました。

（留学生課 安藤松太郎）



活動報告

1

地域との連携 (徳島市立高等学校との連携)



2002年の秋、「修学旅行を充実したものにしたいのです！」の大杉校長と篠原教頭のこたばから始まりました。徳島市立高校は、今年5月中旬に2年生（約360名）の4泊5日のマレーシア、シンガポールへの修学旅行を計画していて、留学生センターへの活動依頼がありました。徳島大学には9名のマレーシアからの留学生が在学（2003年3月現在）しており、彼らが自国をどのように教員と高校生に伝えられるかが焦点でした。事前の何度かの相談の後、2月25日には3名の留学生が、マレーシア紹介（ビデオ、挨拶の言葉、クイズ等の内容）を行い、その後、アジア各地からの留学生8名（中国、インドネシア、イラン、バングラディシュ、韓国、カンボジア等）とともに、9つのクラスに分かれて教室へ向かいました。そして高校生らによって留学生に対して若者ことばや文化、さまざまな行事、遊び等が紹介されました。いつもは、自国の紹介が中心になる訪問が学習の機会になったと留学生からは好評を、また高校生らからは、これから訪問交流するマレーシアの人から直接情報を得たことは貴重な体験であったという声を得ました。修学旅行に参加する各人がどのようなことを今後体験し得ていくのか、今の感想がどのように変わっていくのかを見守っていきたいと考えます。今後も双方向学習の機会を提供できるように県内の学校と協力して多文化を理解するための教育・学習プログラムを計画、運営していきたいと思ひます。

(三隅 友子)

2

海外留学情報

「留学」は私たち日本人にとって非常に大きな意味を持っています。日本の中では「日本人であること」は至極当たり前のことなのですが、留学はこの「当たり前」なことについて基本的な疑問を数多く投げかけてくれます。

例えば、「食事」を例に考えてみましょう。日本では家族みんなで食事をするのは「当たり前」ですが、個人主義的傾向が高い文化圏では「別々に食事をする」ことの方が「当たり前」であり、「一緒に食事をする」のは来客時やホームパーティーなどの限られた時にのみ見られるようです。このような差異に直面した日本人の多くは「何かこの人達っておかしいよね・・・」という感情を抱くと思ひます。しかし、しばらくして「実はこの人達が違うんじゃないかって、自分達が違うんだ！」ということに気づきはじめた時から、「外国人として自分を見つめ、自分にとっての日本文化を見つめなおしていく」ように変化していくようです。そして、この「自分への気づき」こそが異文化理解への第一歩となっていくのです。

留学生センターでは、日本人学生派遣留学の相談を随時受け付けています。具体的には、共通教育「外国語」科目への単位認定が可能となっている大学への短期語学留学・「AIEJ（日本国際教育協会）短期留学推進制度」などによる協定校への交換留学に関する相談を現在受け付けています。是非、一度相談に来てみてください！

☆「留学説明会」を6月後半から7月上旬にかけて行います。興味がある方は是非来て下さい！

(相談先) 坂田 浩

3

日本語研修コース紹介

本コースは、文部科学省国費留学生（大使館推薦）を対象とし、大学院入学前の約6か月の集中講習です。受講生たちは、日本語修得後、受け入れ大学へ移動し、秋から各大学院で専門の勉強が始まります。徳島大学留学生センターとしての初の学生達は、タイ（香川大）1名、バングラデシュ（香川大）1名、メキシコ（徳島大）2名、キューバ（徳島大）1名の計5名です。本コースの到達目標は、受講生達のニーズ分析の結果、「日本語を使って、1人で日常生活が乗り切れるようになる」ことです。徳島での生活が安定し、精神的にゆとりが出てくれば、自ずと大学院での専門研究・学習に専念・集中でき、その結果よい成果をあげることができると思われます。従って日本語修得が大学生活の大きな基盤となります。言語を学ぶことが最終目的ではなく身につけた言語を道具として、その後の生活を支えることになります。そのためには、徳島大学では、初級を修了し、ある程度の知識を身につけてからでなければ、発話ができないというやり方ではなく、日本語研修最初の日から、その日学習したことは、その日使えるようになって帰途につくという方針で行います。4技能（話す・聞く・読む・書く）において「使える日本語」を目指します。授業は、月曜日から金曜日まで、毎日ほぼ午前2コマ、午後2コマの計4コマで、18週間行います。

また、秋期コースからは、学習の機会を学内に広げようと計画しております。日本語力が必要で、集中講習のスケジュールで勉強できる学生達を学内公募して、国費の留学生と共に学習できればと、考えております。

（大石 寧子）

4

全学日本語コース（日本語補講）

（常三島地区）

2002年度、常三島地区の全学日本語コースは、中国からの留学生が多いということを踏まえ、初級レベルについては中国語を母語としている教員と日本語を母語としている教員とがペアとなり、文法的な説明を主にするクラスとその運用能力を高めるクラスを連携させる形で行いました。

（蔵本地区）

2002年度、蔵本地区の全学日本語コースは、月曜日から金曜日までいずれかのレベルのクラスが必ずひとつ開講しているという形で行いました。後期からは、補講案内のリーフレットを作成しました。研究室での活動や、指導教官、日本人学生とのコミュニケーションは英語を中心に行っている留学生も、学内掲示物や日常生活での対応には日本語が必要であることを痛感しているようで、毎週平均してのべ60名近い学生が受講しています。

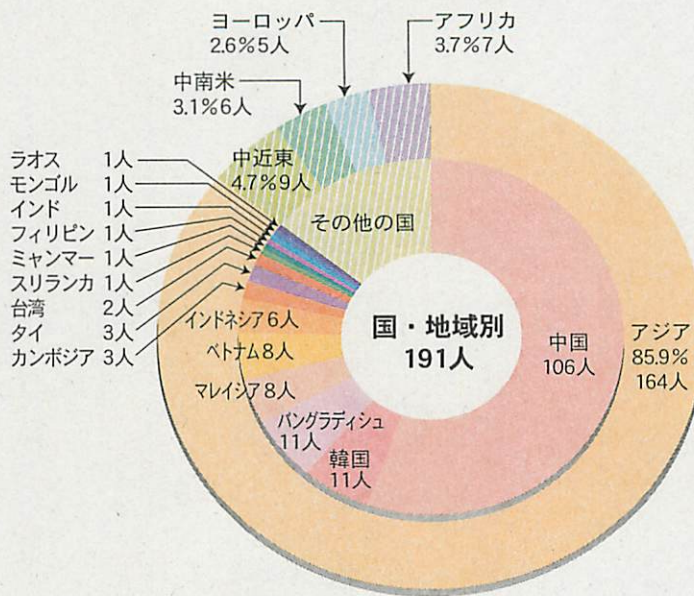
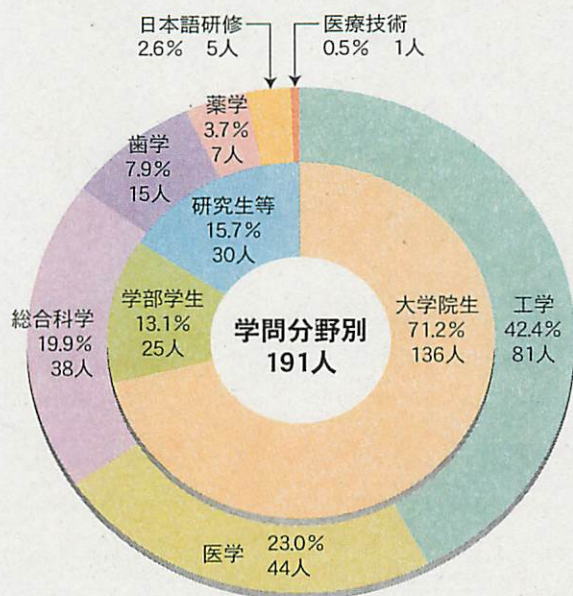
⇒ 2003年度の全学日本語コースについては、別途配布する『日本語教育プログラム案内』及び「Japanese Course Josanjima Campus / Kuramoto Campus」をご覧ください。

2003年度春期 受講登録期間 4月14日～5月6日

（上田 崇仁）

留 学 生 在 籍 情 報

(2003 年 4 月 1 日現在)



留学生の抱える問題

徳島大学の外国人留学生数は200名近くになりました。優秀な留学生を積極的に受け入れる理由については言うまでもないですが、増えつつある留学生に対して、安心して勉強できる環境を整備し、サポート体制の充実することが不可欠になります。そのためにはまず留学生の学習、生活上不安の要素を考えます。今回は問題だけを述べますが、留学生の抱える問題は大きく生活上の問題と修学上の問題に分けられます。生活面では、住宅探しから始まる保証人の問題、日本語能力不十分が原因のコミュニケーション問題、また、私費留学生の場合はさらに奨学金問題、授業料免除問題、アルバイト問題など経済的なものもあります。特に、病気・事故・トラブルなどがあった場合に留学生に与える精神的な影響は大きいと思います。学習の面では、実験装置、研究室の環境についての不満はそれ程ではないですが、授業内容の理解、レポート作成などの苦労話はよく聞こえてきます。留学生が一番悩むのは指導教官とのトラブルがあった時ではないでしょうか。

相談指導部門 金 成海

(Tel:088-656-7543, Email: kin@pm.tokushima-u.ac.jp)

編集後記

留学生センターニュースの創刊号。この発刊を機に設置2年目を迎えたセンターの活動や留学生をめぐる状況を知っていただければ幸いです。(T)

発行 徳島大学留学生センター

住所 徳島市南常三島町2-1

Tel. 088-656-7082 Fax. 088-656-9873

E-mail: ryugakuk@jim.tokushima-u.ac.jp